



山賀遺跡のちょっと変わった木製品
(弥生時代前期土坑出土)

もくじ

- P. 2
 - 文化財講座点描
 - 郷土の文化財を見学する会
 - 第51回大阪府埋蔵文化財研究会
- P. 3
 - 民集博小展示 むかしの道具1 農具
 - 海外研究者来訪
 - 新役職員の紹介
 - 歴史体験隊
- P. 4
 - 池上曾根史跡公園協会共催ツアーと写真展
 - 日本民家集落博物館共催ツアーと写真展
 - はざみ山遺跡展示施設開館
 - 京阪調査事務所 展示コーナー開設

- P. 5
 - 体験発掘
- P. 6
 - 讃良郡条里遺跡 現地公開
 - 巢本遺跡 現地公開
- P. 7
 - トピックス
 - * 山賀遺跡のちょっと変わった木製品
 - * 讃良郡条里遺跡03-6出土 剣形土製品
- P. 8
 - 弥生文化博物館 冬の展示ご案内
 - 近つ飛鳥博物館 冬の展示ご案内
 - 日本民家集落博物館 催しご案内 (12月から3月)

文化財講座点描

平成17年度文化財講座『魏志倭人伝の世界』

第1回 5月15日(日)

『なぜ九州邪馬台国か—日本列島における「国」の成立—』

高島 忠平氏〔佐賀女子短期大学教授〕

第2回 6月19日(日)

『瀬戸内の弥生社会』

下條 信行氏〔愛媛大学文学部教授〕

第3回 7月17日(日)

『倭国王都 邪馬台国大和説—摂河泉はその表門戸—』

水野 正好氏〔(財)大阪府文化財センター理事長〕

第4回 8月21日(日)

『倉・神殿・居館—大型建物を語る—』

森岡 秀人氏〔芦屋市教育委員会文化財課主査〕

第5回 9月18日(日)

『「方寸の世界」に歴史を読む—「漢委奴国王」「親魏倭王」

「率善中郎将」「邸閣督」印とその史的周辺—』

久米 雅雄氏〔大阪府教育委員会文化財保護課主査〕

第6回 10月16日(日)

『邪馬台国と狗奴国』

赤塚 次郎氏〔愛知県埋蔵文化財センター調査課主任主査〕

第7回 11月20日(日)

『三国時代の神仙思想』

小南 一郎氏〔京都大学名誉教授〕

第8回 12月18日(日)

『近畿式銅鐸と三遠式銅鐸—最終段階の銅鐸の動向—』

難波 洋三氏〔京都国立博物館考古室長〕

第9回 1月15日(日)

『倭国乱と卑弥呼の共立』

大橋 信弥氏〔滋賀県立安土城考古博物館学芸課長〕

第10回 2月19日(日)

『邪馬台国の時代—古墳の出現をめぐって—』

和田 晴吾氏〔立命館大学文学部教授〕

現在、第6回まで終了。

第1回、高島先生は近畿説と比較しながら吉野ヶ里遺跡を例に魏志倭人伝からみた邪馬台国九州説を展開された。

第2回、下條先生は、文京遺跡を中心に金属器の有り様から西部瀬戸内の2～3世紀を考古学調査成果に基づいたお話であった。

第3回、水野先生は、邪馬台国大和説の立場からその表玄関となる摂河泉の港津の重要性をお話された。

第4回、森岡氏は、大型建物を構造・編年・分布・描かれた建物等多方面から分析された。

第5回、久米氏は長年取り組んで来られた印章史の研究と考古学の成果から「漢委奴國王」は「漢イト国王」と解すべきとする邪馬台国論をお話された。

第6回、赤塚氏は土器(S字甕)・前方後方墳の有り様から日本各地の国の一つ伊勢湾沿岸の狗奴国を立証。狗奴国の動向(邪馬台国との抗争)はヤマト王権の誕生に大きな影響を与えたというお話であった。

各先生のご講演ともこのような短い文では語りえない内容であり、また、今年度も1冊の本にまとめたいと気を張り詰めている今日この頃である。(石神幸子)

郷土の文化財を見学する会

7月16日に第4回例会を開催しました。吉村正親氏の案内で寿宝寺、法泉寺、飯岡古墳群など、木津川中流域左岸沿いにある京田辺市内の遺跡、史跡を見学し、南山城地方の歴史と文化を学びました。

第5回例会は9月11日に八尾と久宝寺、隣接する2つの寺内町を八尾市立歴史民俗資料館の小谷利明氏と(財)八尾市文化財研究調査会の岡田清一氏の案内で歩きました。

八尾市は、中近世以降この2ヶ所の街を軸として発展していったことを知りました。

第6回例会は10月9日に吹田市博物館の西本安秀氏とともに、浜屋敷、西尾家、高浜神社等を訪れ、回漕業で栄えた近世旧吹田村の歴史、文化を学びました。(岡本圭司)



浜屋敷(吹田歴史文化まちづくりセンター)の見学

第51回大阪府埋蔵文化財研究会

9月17日(土)に第51回大阪府埋蔵文化財研究会を大阪府教育委員会調査事務所講義室にて開催しました。

テーマは「弥生時代、古墳時代の発掘調査事例—集落跡の調査を中心に—」です。発表は9本を数えました。

何れも最近の発掘調査成果をもとにした研究発表で、新事実が次々と明らかとなり、興味深い発表の連続でした。

当日は各地で文化財関連の行事が行われたため、「閑散とした会になるのではないか」と憂慮しましたが、65名の参加者を得て盛況に行うことができました。(岡本圭司)



発表を熱心に聴講する参加者

民集博小展示 むかしの道具1 農具

1976～1986年の10年間当センターは、低湿地遺跡の調査の嚆矢となった近畿自動車道関連15遺跡の発掘調査を行ったが、今回はその調査で出土した鋤や鍬、竪杵、臼などの農具を中心に小展示「むかしの道具1 農具」を日本民家集落博物館カルチュアはっとりで9月10日（土）～25日（日）の14日間開催し、9月19日（月・祝）にビデオ上映会とお話「発掘 むかしの農具」（福岡部長）を行った。（入館者総数2005人・ビデオ上映会とお話19人）

海外研究者来訪

7月5日 韓国東国大学校 安在皓教授が、中部調査事務所で弓削ノ庄遺跡出土の突帯文土器調査。

8月20日 韓国慶尚大学校 趙榮済教授他一行が南部調査事務所訪問。

8月22日 九州大学 宮本一夫教授の同道により、中国山東大学と煙台市博物館の研究者5人が、池島・福万寺遺跡で水田跡調査。

8月10日から来日中の韓国（財）忠清文化財研究院 柳基正先任研究員が、中部調査事務所他訪問。

新役職員の紹介

6月に行われた平成17年度第1回役員会において、役員の異動があった。また、8月1日付で任期付職員、10月1日付で専門調査員の採用があり（内1名は12月1日付）、12名の増員が図られた。

退任された役員

福井 利彦（評議員） 向井 正博（評議員）

新たな役員

田辺 征夫（理事）

小菅 源治（評議員） 丹上 務（評議員）

新規採用

<任期付き職員>

新海 正博（中部調査事務所調査第二係技師）

内田 真雄（池島支所調査係技師）

福佐 美智子（池島支所調査係技師）

<専門調査員>

井上 宗嗣（京阪調査事務所調査第三係・巢本遺跡）

村田 昌也（京阪調査事務所調査第三係・讀良郡糸里遺跡3）

大竹 正裕（京阪調査事務所調査第五係・有池遺跡他）

池田 晋（中部調査事務所調査第二係・新上小阪遺跡2）

日野 祥子（中部調査事務所調査第二係・久宝寺遺跡）

山中 信人（池島支所調査係・池島遺跡Ⅱ-4）

佐藤 由美（南部調査事務所調査第一係・三宅西遺跡2）

関本 優美子（南部調査事務所調査第二係・湊遺跡）

松野 元宏（池島支所調査係・池島遺跡Ⅱ-3）12月1日付

歴史体験隊

今年度、子どもゆめ基金（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）の助成金の交付を受けておこなっている「歴史体験隊」。全6回のうち、これまでに3回が終わりましたので、活動の経過をお知らせします。

7月17日、日本民家集落博物館・十津川の民家の前に結集した体験隊員は、山本彰隊長（普及資料課長）の訓示を受けたのち、活動を開始しました。この日は火おこしと泥めんこ作り、泥めんこ遊びの体験。粘土の空気をしっかり抜いておかないと、焼いている途中ではぜてしまうことを経験しました。2回目（8月21日）はボール紙での衝角付冑作りと鉄製甲冑の重さ体験。「冑どうやって組み立てるの？」の大合唱に、「復原品を自分でよく観察して作ってね!」と始めたものの悪戦苦闘。全員無事完成したときには、指導隊員一同、ほっとしました。3回目（10月16日）は土器作りの体験。吹田市内の発掘調査現場から採ってきた粘土の硬い塊を叩き潰してこねるという、粘土を作るところから体験しました。創造性に富んだ作品ができあがり、12月の焼成に向けて現在乾燥中です。

正隊長は小学校1年生から中学校1年生までの33人、準隊員として弟妹や保護者が加わります。個性豊かな隊員たちと、負けず劣らず個性的な指導隊員一同（これまでに10人が参加）、毎回楽しく活動しています。



7月17日（日）
泥めんこをつくろう
参加者26人
服部緑地公園内ちかくの森で七輪を並べ、泥めんこを焼いているところ。



8月21日（日）
冑をつくろう
参加者22人
日本民家集落博物館内カルチュアはっとりにて。指導隊員は古墳時代の大王や武人に扮装しています。



10月16日（日）
土器をつくろうー作る
参加者33人
日本民家集落博物館内白川の民家前で、土器の作り方や櫛描文についての説明を聴く隊員たち。

（峠 美穂）

池上曾根史跡公園協会共催ツアーと写真展

池上曾根史跡公園協会と今年2回目の共催ツアーを「東海地方の弥生・古墳時代遺跡を訪ねて」と題し、9月29日、30日に静岡県磐田市と浜松市の遺跡を訪れました。

29日に、磐田市埋蔵文化財センター、銚子塚古墳、松林山古墳、遠江国分寺跡などを磐田市教育委員会の安藤寛氏に案内いただき、翌30日には浜松市博物館博物館の辰巳均氏の案内で伊場遺跡資料館、浜松市博物館などを、栗原雅也氏の案内で銅鐸の歴史民俗資料館などを訪れました。

当地で活躍される研究者による最新の研究成果を交えた懇切丁寧な解説に、参加者は熱心に聴講しておられました。

なお、当日の写真展を弥生学習館にて11月1日～30日の日程で開催しました。（岡本圭司）



松林山古墳にて安藤寛氏との質疑応答

日本民家集落博物館共催ツアーと写真展

日本民家集落博物館との共催ツアーを「備前国の歴史と文化を旅する―焼物と名刀の国―」と題して9月23日秋分の日に実施しました。今回は、岡山県南西部地方、備前地域の歴史文化と芸術にスポットを当て、竹久夢二生家、夢二少年山荘、備前長船刀剣博物館、備前焼伝統産業会館、閑谷学校、八塔寺ふるさと村を訪れました。

各見学先では、学芸員や陶芸家など専門家に解説いただきました。最新の見解を詳しく教えていただいたことで、見聞を広めることができました。現地の優れた景観に触れたことに、参加者は感銘を受けられておられました。

なお、当日の写真展を日本民家集落博物館の南部の曲屋にて11月1日～11日の日程で開催しました。（岡本圭司）



備前焼伝統産業会館にて陶芸家延原勝氏の解説を聞く

はざみ山遺跡展示施設開館

初秋の風がそよぐこの9月、新築なった藤井寺団地集会所中央ホール奥に、標記遺跡の調査成果と出土品の一部を公開する施設が設けられ、広く住民らに公開された。

展示品は、当財団が2002年から翌年にかけて行った同住宅建て替え工事に伴う調査で出土した飛鳥時代を中心とする資料で、このうち代表的な遺構・遺物をパネル7点と、遺物展示棚1基に収納した状態で展示し、解説を加えた。中でも壮観なのは、85棟にもおよぶ掘立柱建物群を、時期別に色分けして示した巨大な空中写真パネルで、土器や石器と共に、訪れた見学者達の注目の的となっている。

（三好孝一）



公開展示風景

京阪調査事務所 展示コーナー開設

本年11月、京阪調査事務所に近い萱島東公園の一角にある整理棟に展示コーナーを開設した。

展示面積はおよそ37㎡で、バリアフリーの1階正面入口に接した場所にある。建物の構造上、博物館のような展示には及ばないが、絵馬や人形などの模造品を除けば土器を中心に最新の実物資料を展示している。

展示は、常設と整理作業中の重要資料を収蔵展示する部分に分かれ、現在は讃良郡条里遺跡の資料が展示の中心である。なお、公開は平日の午後5時までに限っている。

（宮野淳一）



展示コーナーのようす（右が常設、左が収蔵展示）

体 験 発 掘

寝屋川市立第五中学校の2年生の男子生徒6名が京阪調査事務所で職場体験学習をしました。9月13日（火）～9月15日（木）の3日間、午前9時から午後4時まで広範で内容の濃い職場体験となりました。

1日目は、3日間の日程説明と諸注意を受けたあと、京阪調査事務所の施設を見学し、職員がどんな仕事をしているのか一通りの作業を見てまわりました。部屋へ戻って、文化財保護の体系や大阪府文化財センターの仕事や組織について説明を受けたあと、パソコンを活用して事務の仕事を経験しました。書籍の登録の仕方、出張旅費の計算の仕方、物品購入手続きを楽しそうに教えてもらっていました。午後から太秦遺跡、讃良郡条里遺跡の発掘現場で遺跡の説明を受けながら見学しました。そのあと、現場事務所で、出土した遺物を手で感触を確かめながら、興味深そうに説明に耳を傾けていました。4時前には調査事務所に戻り、レポートを作成して帰路につきました。

2日目は、讃良郡条里遺跡の発掘現場事務所に、直接の集合となりました。遅刻もなく、元気に自転車で出勤です。発掘調査体験のまえに、周辺の遺跡・地形環境・積み重なる地層・洪水と土砂・遺構・水田のはじまり・渡来人・河内の馬飼・条里制などについて和気藹々の雰囲気の中で説明を受けました。そのあと、発掘現場でスコップなどの道具を使って古墳時代の遺構面の検出に挑戦、遺物が出土すると目を輝かせていました。午後からは、風があったものの暑い作業環境にもかかわらず、昼休みもそこそこに、発掘作業に挑戦していました。手ガリで遺構の検出をし、手スコや手ガリ・竹串を使って遺構掘削を経験しました。2時半頃には現場事務所へ戻って休憩し、3時から土器（須恵器の杯身）を洗浄し、編年表で比較しながら土器の年代調べに挑戦していました。質問や感想を出し合ったあと、一日のまとめをして解散しました。

3日目は、京阪調査事務所へ集合してから、新整理棟へ移動して、午前中は、土師器・縄文土器の接合や須恵器の接合に挑戦しました。昼食後、京阪調査事務所へ戻り、写真撮影業務の体験をしました。高価な写真機を手にとって撮影練習をさせてもらい、適正露光・シャッタースピード・絞り・絞りとピントとの関係などの説明に耳を傾けていました。3時半頃から職業体験を終えるにあたってのまとめをして3日間の全日程を終えました。



10月13日（木）に東京都町田市から和光高等学校が発掘実習に来阪しました。日本古代史研究旅行ということで、2年生男女24名が、付添の先生1名と補助大学生2名に引率されて、大型バスで三宅西遺跡・池内遺跡の現場事務所にやってきました。午前10時から午後4時までの予定で、到着後、直ちに、遺跡の概要や大阪の地勢について説明を受け、諸注意のあと、外業実習班と内業実習班に別れて、実習場所に移動しました。

外業実習班は、三宅西遺跡の発掘現場に着くと、ヘルメットを着用し、長靴を履いて、現場を前にして概略の説明を受けました。そのあと、測量・遺構検出・土層観察をローテーションで体験しました。その間に、ゆとりができたところで土器検出に挑戦していましたが、一番楽しそうでした。中には、終了時刻になっても執拗に検出をする生徒もいました。特に、土層観察はぬかるみの溝に入っの作業となり、長靴が抜けず、歩くのに四苦八苦の様子でした。

内業実習班は、池内遺跡の現場事務所で、室内班と室外班に別れての体験学習となりました。室内班は、三宅西遺跡出土遺物（縄文時代後期と古墳時代中期）について実物に触れながら、質問をしながら説明を聞きました。そのあと、土器の接合作業を経験しました。室外班は、土器片をていねいに洗浄していました。午後から、外業班と内業班が交代、予定の発掘実習を終了して、全員、元気にバスに乗車して出発しました。（山岡平和）



土層観察をしている外業実習班



熱心に質問をする内業実習班

讃良郡条里遺跡 現地公開

讃良郡条里遺跡は、生駒山系の西側平野部、現在の寝屋川市と四条畷市にまたがって位置する東西約1.6km、南北約2.6kmに及ぶ遺跡である。当センターでは第二京阪道路建設に伴い発掘調査を実施しており、遺跡からは、縄文時代から近世に至るまでの遺物が出土し、近隣の河川の氾濫による厚い洪水砂に覆れた水田や、流路、掘立柱建物、竪穴住居などが検出されている。

現地公開は、讃良郡条里遺跡03-4～03-6調査区（その7～その9）を対象とし、各時代の遺物とともに、馬具や鉄製品、木製品などが発見されている古墳時代の遺物を中心に展示することとした。また遺跡内の移動距離が長い点を考慮し、三つの会場を設け、第一会場のその9では、出土遺物と調査中である奈良時代の遺構を、第二会場のその7では、古墳時代の遺構に加え、下面の弥生時代中期の水田面も見学してもらうこととなった。そして第三会場ではその7・8の出土遺物の展示を行った。

平成17年10月15日、現地公開当日は、早朝から時折強い雨が降り出す悪天候で、会場の設営や通路の整備など困難な点もあったが、予定通り午後一時に開場することができた。雨の中、200人近くの方々に集まっていただき、技師による説明に熱心に聞き入る様子や、遺物について質問する姿も多くみられ、見学者の方々の関心の高さに驚かされた。

限られた時間の中ではあったが、来場された方々には発掘調査の成果の一端をお見せすることができた。今回、無事終了することができたのは、多くの人の協力があったこそである。最後に、傘を片手に見学に来ていただいた方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

（山根 航）



現地公開風景



現地公開遺物展示風景

巣本遺跡 現地公開

巣本遺跡は門真市内に所在し、第二京阪道路（大阪北道路）の建設に伴って発掘調査を行っている。

調査では、中世の掘立柱建物や井戸、区画溝などと共に、畠の跡などが検出されている。

11月5日（土）に門真市都市整備部の協力の下、調査地周辺の方々を対象とした現地公開を実施した。調査終了工区で全体説明・遺物展示をし、現調査区で現場公開・遺跡説明を行った。天候に恵まれ、地元の方々を中心に158名の参加を得た。

次いで11月7日（月）・8日（火）には、門真市都市整備部・教育委員会の協力の下で、門真市内の小学生を対象とした現地公開を実施した。

参加した小学校は、東小学校（6年生）、四宮小学校（6年生）、北巣本小学校（5、6年生）、古川橋小学校（5年生）、上野口小学校（6年生）、脇田小学校（6年生）の全6校で、総数567名（教員除く）の参加を得た。

出土した土器を実際に触ってもらうなど、地元の歴史に親しんでもらった。参加した児童の大半が、発掘現場は未経験ということもあり、地元からみつかった遺跡に大きな関心を寄せていた。

両公開で、遺跡周辺の方々に地元の文化財に触れていただくことができたのは大きな成果といえる。（木村寛之）



現地公開遺物展示風景（11月5日）



四宮小学校の皆さんへの遺跡説明風景（11月7日）

＜＜＜ 山賀遺跡のちょっと変わった木製品 ＞＞＞

平成16・17年度、八尾市新家町5丁目において、寝屋川水系改良事業（新家調節池：2846㎡）に伴う調査を行い、縄文～歴史時代の多数の遺構面と、650コンテナ以上の遺物を検出した。主な成果は、弥生前期～中期の溝群や木棺墓群の検出である。

この木製品は第11－2面の1400土坑（平面ほぼ円形、長径1.7m、短径1.5m、深さ0.7m）の最上層から、ふくらみの強い面を上、鈕状部を北東に向けて出土した。



山賀遺跡の木製品

土坑中層から壺2、鉢1、甕1、高杯1など弥生前期後半の土器と木片2点も出土した。

木製品は、一見すると鈕の付いた鈴のようにみえる。材は広葉樹と思われ、表面が漆黒を呈することから、漆が塗布されていると考えられる。

鈕孔の径は約5mm、部分的に擦痕がみられる。体部はカステネットのような形状で、縦50mm、横56mm、最大厚26mm。両表面には、工字文や流水文に類似した文様が浮き彫りにされている。側面は幅10mm程で面取りされ、両側に径・深さとも3～4mmの小さな挟り孔が一对ある。鈕と反対側には幅6～8mm、最大深さ17mmの切り込みが廻っている。その内部には、開口部に向かって放射状に広がる筋状の盛り上がりと溝状の浅いくぼみとが残っているので、細い棒状のものが漆などで固定されていた可能性が高い。

この木製品の体部文様は、縄文時代の土版、弥生時代の垂飾形土製品、分銅形土製品、あるいは土器の文様に類似する。

現時点では、この木製品は日常品ではなく儀器とされるものに近いと考えている。（本間元樹）

＜＜＜ 讃良郡条里遺跡03－6出土 剣形土製品 ＞＞＞

今回紹介する遺物は、京阪調査事務所管内において、平成16年度より調査を行っている讃良郡条里遺跡03－6から出土したものである。

当調査区の主な成果は、自然堤防上に営まれた古墳時代および奈良時代から平安時代にかけての集落が見つかったことである。集落のすぐ脇には、大きな谷があり、堆積土中から土器、石器、木製品が数多く出土



剣形土製品

し、古墳時代中期から後期の遺物を包含する層より出土したもののひとつが、写真で示す土製品である。

この土製品は、把装具を装着した鉄剣を模倣した、土師質の剣形と考えられる。剣形は全長約22cm、把頭の径約5cmを測り、剣身、突起のつく把縁、把間、円筒形の把頭からなる。全体を長辺方向にケズリとミガキによって平滑に仕上げており、丁寧に作られたことがわかる。

把頭は端面中央に突帯を付け、その中央に半円形の切り込みを施す。把縁には突起が見られ、端面に円形の穴をあけることをそれぞれ特徴とする。これらのことから、鉄剣や鉄刀の装具の分類に照らし合わせると小林行雄氏の鹿角装具第1類、置田雅昭氏の木製把装具A類の装具を装着した鉄剣を真似て作られたと考えられる。

土で作った剣は、奈良県の寺口忍海D-27号墳や大阪府の大賀世3号墳から出土した埴輪に類例が見られるが、この剣形土製品が出土した付近には、勾玉や滑石製の模造品など祭祀に関連する遺物が認められることから、この遺物は剣を模造した祭祀具の可能性が考えられる。（鹿野 壘）

弥生文化博物館 冬の展示ご案内

平成18年冬季企画展

ここまでわかった考古学 「弥生ムラの風景～八尾南遺跡の最新成果～」 2月18日(土)～3月21日(火・祝)

(財)大阪府文化財センターで平成14～16年度に実施した八尾南遺跡の調査では、堅穴建物(住居)・掘立柱建物・屋外炉・井戸などからなる居住域と生産域(水田)からなる弥生後期前半の集落跡が良好な状態で検出されました。これによって、集落内の土地利用の状況や堅穴建物の構造を知ることができる重要なデータを得ることができました。

今回の展示では、八尾南遺跡の成果を中心に河内湖南岸地域における弥生時代後期の集落遺跡を紹介し、各遺跡の“ムラの風景”を覗いてみたいと思います。

◆調査成果報告会

3月5日(日)「土器に描かれた絵」
正岡大実(財)大阪府文化財センター)

◆ミニシンポジウム

3月12日(日)「弥生後期集落の景観」

◆ミュージアムコンサート

12月18日(日)クリスマスコンサート
2月12日(日)バレンタインコンサート

◆ミニギャラリー

12月6日(火)～18日(日)心の仏さま展
詳しくは博物館までお問い合わせください。

電話 0725-46-2162

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

近つ飛鳥博物館 冬の展示ご案内

平成17年度冬季企画展・重要文化財指定記念

「年代のものさしー陶器の須恵器ー」

陶器窯跡群出土の須恵器を古墳・集落遺跡の年代的な位置づけの基準資料としての視点から関連資料とともに展示します。

期間：平成18年1月28日(土)～3月5日(日)

○歴史セミナー 1月29日(日)李 正鎬(東新大学校)、
木下 亘(檀原考古学研究所附属博物館)



2月11日(祝)
中村 浩(大谷女子大学)

◆一須賀古墳群講座「風土記の丘の古墳群を歩く」

2月19日(日)

◆(財)大阪府文化財センターとの共同研究発表会

「陶器窯跡群の成立と展開」 2月26日(日)

◆テーマ展示 ここまでわかった考古学

「太秦古墳群 発掘調査成果ー大阪の初期群集墳を考えるー」

期間：平成18年3月12日(日)～3月26日(日)

○調査成果報告会 3月19日(日)

◆カルチャーofアスカディア「古市古墳群を歩く」

3月12日(日)

※くわしくは博物館までお問い合わせください。

電話 0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>

日本民家集落博物館 催しご案内(12月～3月)

◆企画展「山に生きる人々ー宮崎県椎葉村の民家と暮らしー」

<12/1(木)～25(日)>※11月1日より引き続き開催
ー椎葉村の焼畑農耕と平家落人伝説の展示ー

・期間内講座 12月3日(土)(13:30～15:00)

「椎葉の植生と植物利用」野間直彦氏(滋賀県立大学講師)を開催。

・期間中、椎葉の民家に椎葉神楽の飾りつけを再現。椎葉神楽の映像を上演。(毎日13:30～14:30)

◆米蔵ミニギャラリー作品展示

<12/1(木)～25(日)>※11月29日より引き続き開催
ー丸山鏡子・植村浩一氏による絵画、陶芸展ー

◆開運プレゼント <12/1(木)～25(日)>
ー抽選で、上記作家による祝い箸、戌の置物、白橋鐘道氏手書きの書道カレンダーのプレゼントと販売ー

◆しめ縄教室 <12/10(土)～11(日)10:30～12:00>
ー10日は伝統的なしめ縄、10～11日はリース風しめ縄作りー
(材料費いずれも700円、入館料は別途必要)

◆正月飾り展 <1/5(木)～31(火)>
ー飛騨白川の餅花など民家各地の正月飾りを再現ー

◆ふるさとのお雑煮会

<1/8(日)～9/(月・祝)11:00～売切れ次第終了>
ーいりろ端で各地のお雑煮の試食体験。飛騨白川の枴餅雑煮と広島のはぐり雑煮ー(各300円、入館料は別途必要)

◆餅つき体験 <2/5(日)11:00～13:00>

ーかまどのせいろで蒸したもち米を臼でつく体験ー

◆大阪府文化財センターとの共催共同研究一般向け発表会 「住居に関する総合的研究(4)」

<2/25(土)13:30～16:00>

黒木光太郎氏(椎葉村教育委員会)

望月浩氏(神戸深江生活文化史料館研究員)

◆民家集落作品展 <3/5(日)～21(火・祝)>

ー民家を題材にした絵画・写真・版画・模型・俳句・研究等の作品を募集。優秀作品を表彰、展示ー

※作品受付・搬入期間は2/17(金)～19(日)

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。

(TEL 06-6862-3137)